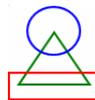


研究所通信



2006年晩秋号

藤田佳代舞踊研究所

神戸市東灘区住吉本町1-4-4

TEL・FAX 078-822-2066

E-メール fkmds@muf.biglobe.ne.jp

URL <http://www2s.biglobe.ne.jp/~fkmds/>

JWORDで検索するなら・・・ダダダダ

第29回発表会を無事終わることが出来ました。

出演者はみなしっかり踊ってくれました。立派なステキなステージを作り上げてくれました。学校公演ができればいいのと思っているくらい私は自信たっぷりです。生徒達がこのような底力を持っているのは保護者のみなさまが愛情深くなおかつ注意深くお育て下さっているからだと思ひ感謝の念でいっぱいです。ひとくちに29回といいますが4才で習いに来てくれた幼い子どもが33才の立派な大人になっています。なんと長い時間が流れたことでしょう。

それでもあつという間の年月だったようにも思えます。来年は第30回になります。がんばってなんとか30回にふさわしい作品を考えますので来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さらに11月18日藤田のリサイタルが迫っています。

プログラムは「追いかける」「花」「震える木」の3本です。3本とも生演奏です。「追いかける(パッサ 無伴奏チェロ組曲)」、踊りって何踊りって何踊りをつくるって何 回答はないのかもしれない それでも追いかけてやろうと思ってつくったものです。「花(プロコフィエフ チェロソナタ)」はどうしてこの地球から戦争がなくなるののだろうと考えつくりました。花は命の最も華やく瞬間です。戦争は命を破壊する行為です。兵庫県に自生する花を選んでみます。「震える木(委囀>丹生ナオミ 震える木のためのチェロ ピアノ オーボエの曲)」は安永稔和さんの詩『震える木』から思いを得てつくりました。木の形をしたものが 地球の裏側か 隣の星か あの世に在るもう一本の木の形をしたものの震えをキャッチする詩です。発表会の次の日もリハ・サルしています。ダンサーたちは緊張のあまり息をするのも忘れていないかと思われるくらいリハ・サルの度に集中して踊っています。きっとお目にかなう踊りをお見せできるとおもいます。どうぞご来会くださいませ。

藤田佳代

終わりました！ありがとうございました

藤田佳代舞踊研究所第29回発表会

2006年10月28日(土) 神戸文化ホール大ホール

「室内交差点を渡るとき子守唄が聞こえてきても眠っちゃいけないよ」

「2006年1月1日8時59分60秒」

終わりをければすべてよしと言いますが...いえ、始まりも終わりも悪かったわけでは決してありません。

出演者の皆さま、保護者の皆さま、役員の皆さま本当に疲れさまでした。ありがとうございました。出演者の踊りは本当に素晴らしかったと思います。年々完成度が高くなっています。毎年の発表会は、私たち研究所スタッフは朝9時ごろに会場に入ります。楽屋等の準備のためもあります。時間をとられるのは装置の組み立てです。去年は、山の神様の山の組み立てに中学生高校生の出演者も総動員で、布を貼ったり花を飾りつけたり...できた！と思ったときはお昼に近くなっていた、そんな感じでした。今回は、『2006年1月1日・・・』の装置の布に棒を通すだけ、当日はとても簡単でした(もちろんその前に布を縫っていただいたり、『室内交差点』の装置の籐を組んだりといった準備はしていましたが)、いつもはたばたと、舞台稽古に突入するのですが、今回は余裕を持って舞台稽古に。大きなだめ出しもなく本番の開演も悠々と迎えることができました。プログラムも順調に終了。アンコールも終わった、最後まで余裕だったねえ...と楽屋に戻ってきてからが大変でした。「リズムクラスの優佳ちゃんがない!!」 半分お化粧を落としかけていた人はとりあえず落とし、脱ぎかけの衣装を引っ張り上げ、または上をはおり、あるいはそのまま、まずはすべての楽屋へ。どこの楽屋にもいない!! 外へ出たのかも、とロビーへ。そこで、あっ、このかっこうではこれ以上外に出られない、私服の保護者にまかせて、舞台上に引き返す。男性用トイレをのぞいたり、舞台スタッフに「どこへいくんですかっ!!」と怒られつつも奈落や天上の立ち入り禁止地帯へ...どこにもいない...どうしよう。とりあえず楽屋へ戻ってきたとき「いましたよ!」の声が。幻聴では?...などと思いつつ優佳ちゃんの楽屋へ行くと、いました、いました! 脱走癖のある天使は、やはり外へ出たらしいのです。衣装を着ているしメイクもしている、この子は?と観て下さっていたお客様が、おかしななと思い、ひきとめて下さったところを優佳ちゃんのお母さんがみつけました。その方が引き止めて下さっていなかったら...と思うと今でも心臓が不整脈を起こします。でもその方がどなたか分からないのです。スタッフ一同心から感謝しています。本当に本当にありがとうございました。そう、終わりもよかったです。リズムクラスの出演者を見守って下さる方がいたのですから。それから一緒に探して下さいました保護者のみなさまもほんとうにありがとうございました。第29回発表会は初めから終わりまで完璧でした。

菊本千永

空を見て、海を見て、山を見て、自分を見てというバーレッスンを体験レッスンを見て、それに親子で魅かれバレエを始めて今年11回目の発表会を終えました。

毎回、通り過ぎてしまふようなことが発表会という形になってきてくるので感動したり、反省したり、うれしく思ったり、悲しんだりしています。踊りはもちろんのこと音楽でも楽しんでます。テレビなどで聴いたことのある曲が流れたときは、どのときの曲やったっけと、娘とまたビデオを見直します。今年はモーツアルトの曲が2006年1月1日8時59分60秒に使われていました。

これからモーツアルトの曲を聴くと、あの踊りがよみがえってくるという楽しみが増えました。来年はどんな曲を使って、どんな踊りを見せて下さるのでしょ。楽しみにしています。

梁河久美子(保護者会会長)

モダンバレエはいい、声がないから、年をとると、あちこち体が悪くなる、脳腫瘍で左の耳の聴覚がゼロになってからずいぶんたつが、藤田さんのモダンバレエは安心してみられる。セリフがないから。小さい子供さんの愛らしい動きはたまらなくうれしい。よくここまで動きを覚えられるもんだ、家族そろって見に来ているお父さん、お母さん、おじいちゃんおばあちゃん。失礼だが親ばかりがほほえましい。ノ凛とした大人のodorもいいが、かわいい子供のがたについ笑顔になってしまう。それに今回は男性が加わっていた。ノ幅が広がってきたのかなあ。

中村信司(詩人)

第29回藤田佳代舞踊研究所発表会も無事終わり、先生方、お世話の皆様方も御苦労様で御座いました。先生の御指導と日々のレッスンが発表会で花ひらき、美しく楽しい舞台になりました。私もリハ・サルを見せて頂いてのイメージで子供さん達によるこんで頂ける様な花をロビーに入りたいと、二週間前から花を注文し、たのしみながら発表会を待って居りました。リハ・サルの時一寸心配だった子供さん達が当日は見違えるようにいきいきと上手に踊られたのにはおどろき大拍手。うれしく思いました。皆さん又、次に向けて元気で頑張ってください。

鍛冶都美甫(鍛冶先生は第1回発表会からずっとロビーにお花を活けて下さっています)

バレエ体操科の楽屋 皆でプログラムを手にとりながら、今年は第29回、私達は何年目の舞台かしら？ええっと、子供達の成長やお稽古を始めた頃のことなど話しながら、ドキドキの初舞台の人、片手で数えられる人、両手が必要、いえそれでは足りない人も...きっかけも年令も経験も様々、でも毎週の練習を重ねて素敵な衣裳を着け、暗い舞台の袖から一転、まぶしいほど明るいステージへ。一瞬フリが飛んで真っ白！連続ターンで方向が？小物を舞台に置き忘れたことも。数々の失敗にもめず、「継続は力」を信じて(えっ ただの思い込み?!)来年も揃って和やかに舞台に立てますように。
村上由里(本部バレエ体操科)

3歳から習いはじめて4歳で初舞台。僕の12回目の発表会が終わりました。
4年前の『日時計』でも、舞台でほぼ70分間ポーズしたり、少し動いて、じっと座ったりの役でしたが、オルフェウス役は、動きが増えたので覚えるのに苦労しました。曲を覚えるのにも時間をかけ、毎日プログラムの順番どおりのMDを聞いていました。今でも曲が頭を離れていません。最後の『全部抱きしめて』では今までにない達成感のようなものがあり、家に帰ってからも、興奮とやり遂げたという充実感に浸っていました。次の発表会のためにもう少し上手くなって今年以上の達成感が得られればいいと思います。
TERU(本部シニア科)

今年で3回目の発表会なのですが、今回は山本教室から二人しかおらず、寂しい気はしましたが、控え室に行ってみると、知っているお姉さん方がいて声を掛けて下さって、子供たちの面倒を見てくれたので、子供たちの緊張感もすっかり和らぎリラックスして本番前のリハーサルに臨む事ができました。去年まで、涼花の踊る場所はいつも先頭にお姉さんがいてくれたので付いていだけで良かったのですが、今回は涼花が先頭になる重要な場所に立たされたので、どうなることかとヒヤヒヤしていました。しかし本番では、きっちり自分の役目を果たしてくれました。たくさんのレッスンを重ねて、本番を終えるとなんともしない達成感を親子共々味わいました。涼花の成長ぶりを見ることができて親としてはとてもうれしくて感動しました。先生方のご指導のおかげで無事、発表会を終えることができました事深く感謝しております。ありがとうございました。来年も子供のどんな成長や発見が見られるか大変楽しみです。
北原涼花保護者(山本教室こども1)

僕にとってバレエは生活のリズムの大切な部分だ。そして、発表会のための練習、合同稽古、照明合わせ等の楽しさはまた格別だ。心と体を一つの動きと静止を通して表現する踊り、踊る という表現の中で自分の心もまた躍っている。練習で基本をしっかりとやって鍛えること、そこで初めて自分の心に感じるもの、自分の心が躍ることを身体の動きとして表現することができる。基本練習は単純なようで結構厳しいものがあるが、自分自身続けてきたのは、この楽しさがあるからだと思う。みんなと意思を一つにして精一杯踊る発表会は本当に楽しい。発表会の成功も、立派な舞台も多くの人達の支えのおかげだと思う。来年もさらに進歩した踊りを踊れるように努力していきたい。
谷岡亮(エコーリラ 五社 山の街 本部ジュニア)

多くの方に支えられ、今年も素晴らしい発表会にださせて頂き、立派な舞台で躍らせて頂く幸せを子供と共に感謝いたします。先生方には、諦めず温かく励まして指導頂き本当にありがとうございました。日頃のお稽古の楽しさはもちろんですが、子供達はそれぞれ発表会に向けて、課題に真剣にトライし、自分で一つ一つ乗り越える楽しさを身を以て学んだように思います。バレエを通して心を深く磨き、研究所の皆さんと調和し、自分の力を精一杯発揮して踊っている姿に感謝と感動を新たにしました。「バレエを通して“真”を求める」佳代先生の精神を、子育ての柱として又今日から頑張りたいと思います。佳代先生始め先生方関わって下さった総ての方々、そして一緒に踊って下さった皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。
谷岡照美(谷岡亮 みなみ このみ くるみ保護者)

ハスミさんにあこがれていた私達家族に、神様が寺井先生を引き合わせてくださり、今年で2回目の発表会を迎えることができました。発表会前に千晶が病気になる、練習の仕上げどころが舞台上がることも危ぶまれヤキモキしましたが、当日は元気に踊ることができて本当によかったです。本番、客席で見ていた私は千晶の踊る姿に(シリアスな踊りであるにもかかわらず)笑いがこみ上げてきて困りました。素敵な音楽と踊ることをこれからも私達のライフワークにしていきたいと思っています。そしていつも一緒に教室でレッスンしている皆さん、暖かく見守って下さるお母様たち、寺井先生、諸先生方、姉の由里子、本当に感謝しています。
川上久美(川上千晶保護者 常吉教室こども1)

私は、発表会に出るのは5回目になります。今年は、マリーゴールドと少女の2つのやくをすることになり、週1回のおけいこを週2回にふやし、練習をしました。マリーゴールドの方は、みんなと同じことをするのであまりきんちょうはしなかったのだけど、少女のやくは、みんなとちがうことをするところが何かしょかあったので、きんちょうしたし、きんちんとおどれるか心配でした。けれども最後まで、練習してきたことをくいなくおどれましたし、楽しくおどれたので今年、発表会に出れてよかったです。
松田晶紀子(大久保教室こども2)

小さい子供達が自分で一生懸命化粧を治して目の回りが真っ黒になっていたり、何回も『化粧して』って言いに来る幼稚園の子が、とても可愛く、逆に大きなお姉さんでも全て親にやってもらっているのに、少し驚きました。
女の子はあと数年もすれば勝手に化粧して通学してしまう頃になってしまうので、年に一度の発表会の時くらい好きにやらせてあげて、おかしな時に直してあげる位でいいのではないかと思います。どんな顔になってようが、まずは『可愛いね』って言ってあげてほしいです。
中川舞(ステージダンサー 発表会のたびに東京より帰神 楽屋のお手伝いをしてくださっています)

第29回藤田佳代舞踊研究所発表会が無事終了されました事を心からお喜び申し上げます。今回もどのような作品に仕上がっているのかと期待に胸を膨らませ神戸文化ホールに足を運ばさせていただきました。受付でパンフレットを受け取り、観覧席に着席。まずは題名に着目。すごく身近な、いや、なぜ？と想像できない考えを持たされました。家の中で練習する娘の姿を思い浮かべると、一瞬真っ白な時間が流れたように思います。『室ノ内交差点』。そういう場所だったのかと...。皆さんがこの日を迎えるにあたって、練習してきたことをすべて発揮できたかどうかは分かりませんが、舞台上で踊っている姿、そして、目を見ていると感情がすごく伝わってきたように思えました。先生、生徒、又、成長している娘の姿を見て今回も来て良かったなと率直に思えました。また、来年は第30回という節目にあたる年になるかとは思いますが、今からすごく楽しみにしております。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
向井誠(向井万優保護者 本部こども1)

第29回発表会を鑑賞して

第29回発表会の成功おめでとうございます。4月よりお世話になっている小学校5年生の娘にとって初めての発表会でしたが、与えられた役を何とか無事踊り終えることができました。ご指導ありがとうございました。モダンダンスなど見たことのない私たちですので、どんなステージになるのか心配な面もありましたが、小さな子供たちからお姉様方まで次々と登場され、全体として不思議な調和があるという稀有な体験をしました。舞台の演出、美術、照明、衣裳や音楽と振付がよく練られたものだから実現できたのだと思います。また、神戸文化ホールはさすがに立派なホールで、音響も良く見栄えのするステージになったと思います。
是川清弘(是川実希保護者 本部こども2)

今年も仲間と舞台に立ち、一生懸命練習した踊りを踊りました。人に何かを伝えるのは難しい事だと思います。でも私は「踊りで表現できたらいいな」と思っています。次の舞台では一人でも多くの人になにかを感じてもらいたいです。
植岡マリナ(本部シニア科)

今年は練習中にふくらはぎを肉離れするという不運に見舞われました。照明合わせまであと1ヶ月！！という時期だっただけに、とてもショックでした。そんなこんなで「あ～、もっと練習したかった」と悔いが残る発表会でしたが、私のファン（父）は「綺麗だったよ」と言ってくれていたそうです。今年も沢山の人に支えられ、応援してもらって舞台にたつ事ができています。感謝感謝です。作品展は残りの練習もがんばって完全燃焼したいものです。生演奏ですし、不安なところもまだありますが、精一杯踊りますので、どうぞ楽しみにして下さい。

板垣 祐三子（本部シニア科）

発表会を拝見させていただくようになって、もう14年になります。最初の頃は、舞台上で泣き出してしまう子や、客席の家族や友達に勝手に手を振っている子、さらには客席の方へ泣きながら走っていく子など、確かにほほえましいのですが、まだ舞台上で踊ることの意味がよくわかっていないなあと感じることも多かったように思えます。それが最近では、みなさんとてもしっかりしていて、とくに今回のステージでは、まわりの踊りを見回して確認するような踊り手さんもほとんどおらず、本当に自分の踊りを楽しみながら舞台上に立っているんだという感じが伝わってきました。小さかった子供さんが、立派な踊り手として堂々とダンスを披露するようになったのを拝見しますと、家族や知り合いでもありませんが、本当に感激してしまう今日この頃です。

中野良彦（長年舞台写真を撮ってくださっています）

29回目の発表会を終えて私はのびのび躍れたと思えました。リハーサルの時は一回失敗したけれど、本番では失敗せずにできて良かったです。私が踊るのは4番目でその前は本部の人が踊っていて、私はそれを見て、一つ一つの振りがきれくて、体もゴムみたいにやわらかくて「あんなにどうしとんやろお」と思いみとれてしまいました。本当に今年の発表会が一番良かったです。

渡辺麻椰（兵庫コープこども2）

発表会お疲れ様でした。優佳にとっては今年で二度目の発表会。去年は、初めてステージに立ったという事もあり、幕が降り真っ暗になった事にビックリして怖がって踊れなくなってしまいましたが、今年は怖がるどころか楽しく楽しんで皆と踊っているのを見て、1年の成長を感じる事が出来嬉しく思います。来年もどうぞ宜しくお願い致します。最後に発表会の後、お疲れの所 優佳が行方不明になった事で、皆様にご心配ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。

七尾夫美子（七尾優佳保護者 本部リズムクラス）

ピッコロフェスティバル

2006年8月12日 ピッコロシアター

作舞 向井華奈子「月は夜の海であそぶ」 出演 中村牧穂 長谷川千夏 名田麻希子 仲間くみ子 梁河茜 植岡マリナ 西田梨緒

ダンス夢洞楽

2006年8月23日 北沢タウンホール

作舞 菊本千永「GIFT」 出演 金沢景子 向井華奈子

ダンスブーケ

2006年8月27日 本部スタジオ

たくさんの作品が集まって、大きなブーケができました。初めて作品を創った人も数多くいて、思いがけないすごい会になりました。次号にてくわしくご報告したいと思います。

山の街敬老の日の集い

2006年9月18日 筑紫ヶ丘自治会館

出演 山の街教室 桂木教室

第61回国民体育大会のじぎく兵庫国体開催式典前演技

2006年9月30日 ユニバー記念競技場

出演 寺井美津子 かじのり子 向井華奈子 山本みねか 長谷川千夏 名田麻希子 仲間くみ子 空久保香世 中野アヤカ 梁河茜 谷舗亜佑美 TERU 植岡マリナ 松浦早希 松本佳那子 西田梨緒 平岡愛理 山下真奈 姜未喜 坂本侑菜 田村優希 小浦奈都美

神戸大学文学部ホームカミング企画

2006年9月30日 神戸大学瀧川記念学術交流会館

作舞 藤田佳代「花」 出演 寺井美津子 金沢景子 かじのり子 向井華奈子 鎌倉亜矢子 灰谷留理子 板垣祐三子 石井麻子 中村牧穂 長谷川千夏 仲間くみ子 名田麻希子 梁河茜

第6回全国障害者スポーツ大会のじぎく兵庫大会開会式

2006年10月14日 ユニバー記念競技場

振付 藤田佳代 出演 安田蓮美

RUN! RUN!!! RUN!!! 事件

ハスミちゃんは、あまり走ることが得意ではなかった...そうです。のじぎく兵庫大会の式典で炬火（オリンピックの聖火のようなもの）の入場のお迎えをして、第2走者にバトンタッチするまで一緒に走る、という依頼を受けたとき、佳代先生とお母さんの花仙さんは少し不安を感じていました。炬火入場までのダンスはともかくとして、果たして一緒に走れるのか・・・。

のじぎく兵庫大会の会場は兵庫国体と同じ、ユニバー記念競技場（神戸市須磨区）です。炬火は、東ゲートから出発します。ハスミちゃんは反対の西ゲートから踊りながら東ゲートの手前まで、100mほどの距離を進みます。そして、炬火の第1走者と一緒に真ん中の表彰台まで走ります。つまり、踊りながら100m、一緒に50mを走るのです。特訓が始まりましたが、そんな距離を走れるような場所はありません。お稽古場でリハーサルするときは、稽古場を何周も回りました。一度は母校の青陽養護学校のグラウンドで練習しました。ユニバー記念競技場でのゲネプロの直前、「ずいぶん早く走れるようになったね」と少し安心できるようになっていました。

さて、ゲネプロの当日。ハスミちゃん、花仙さん、佳代先生、かじさんと私ででかけました。佳代先生がスタート地点の西ゲート、かじさんが中央、私が東ゲートにスタンバイしました。歌が始まり、ハスミちゃんが踊りながら東ゲートへやってきます。きちんといわれた場所でポーズ。炬火を待ちます。そして炬火の入場、ランナーが近づいてきて、「ハスミちゃん、いいよー走って」と声を掛けますと、ハスミちゃんは突然疾走し始めました。私はもちろん炬火のランナーの方のことも置いてけぼりです。私は追いかけてきましたが、中央で止まるだろうと、まだタ力をくくっていました。しかし、疾走するハスミちゃんは中央でかじさんの「とまってね！」の声も振り切り、まだまだ走ります。「ハスミちゃん、まってえええ！！！」かじさんと私はあわてて追いかけてきましたが、追いつきません（私たちは決して足が遅いほうではなかった）。走って走って走って結局西ゲートまで。...炬火はハスミちゃんの暴走とは関係なく無事進んでいきました...しばらく遅れて息を切らせながら追いついた私達。「は...ハスミちゃん走り過ぎやわ...」。佳代先生と花仙さんが大笑いしながら、やって来ましたが、笑い崩れる二人に（かじさんとわたしはまだ息切れ中）「なんでわらうん？」「何がおかしいねん！！」と息も乱さずに怒っていました。ハスミちゃん、選手のほうになれたかもよ。さんざん言い聞かせられたので本番はちゃんとランナーと一緒に走り、中央で戻りました。

菊本千永

どうぞ観にきてください！お待ちしております

第9回藤田佳代作品展

2006年11月18日(土) 兵庫県立芸術文化センター中ホール 「追いかける」「花」「震える木」

水の話と木の話と

水の話

一滴の滴が木の葉からすべり落ち、地面にしみこんで地下水となり、再び地表に現れて小さな流れが川となって海へと注ぎ込む。太陽に熱せられて水蒸気となって雲に、そして雨になってまた地面にしみこんで…。再び一滴の滴に戻るまでに2000年かかるそうです。2000年という時間は長いのか短いのか判断ができませんが、地球の年齢46億歳を考えれば短いですよね？

木の話

神戸市灘区にある摩耶山天上寺の本堂の話です。本堂の柱には津軽杉が使われています。その杉は極寒の環境の中で育つので年輪の幅が普通の木の半分くらいの密度の濃い木です。津軽杉を扱える人は関西にはいないので、わざわざ扱える宮大工の方に来て建設していただいたそうです。本堂は建ちあがり、そして、阪神淡路大震災がありました。本堂は無事だったのですが、柱はすべて亀裂が入り、斜めにゆがみました。柱の修理のために天上寺までやってきた宮大工さんは、亀裂が入り、斜めにゆがんだ柱を見るなり、「よくやった！」と柱を抱きしめてぼろぼろと泣かれたそうです。コンクリートの柱であれば、地震のエネルギーをうけとめることなくぶつかり、ぼきりと折れてしまいます。木は己を傷つけることで、地震のエネルギーを受け止めて逃し、本堂が倒壊することを防いだのです。宮大工さんは、亀裂をおがくずのようなもので埋めました。そして、今は斜めにゆがんでいるけれど、木は自分の力でまっすぐに戻るから、と言って戻っていかれました。震災から11年後、つい先日天上寺の本堂を見せていただきましたが、柱はまっすぐに立っていました。亀裂の跡も、説明を受けなければ分からないくらいでした。「震える木」のリハーサル中。奇しくも水と木の話。すごい話を聞いたので、書いてみました。 菊本千永

リサイクルのお稽古は、何度繰り返しても、これで良しと満足できるものではありません。回を重ねるごとに癖が出たり、踊りながらイメージが膨らんできてタイミングを外してしまったり。かと言って1日に何回も踊ることが良いとは限りません。集中力がなくなり、うっかり間違ってしまう、不安になります。何ヶ月もかけて、1回ずつ心をこめて練習しても、まだまだ練習不足では？と思いつつ本番の日を迎えます。私は、本番直前舞台袖で、終演後のダンサーの笑顔をイメージするトレーニングを、踊りの神様！ありがとう！と唱えながらします。これは緊張の極みで私自身の最後の鍛錬です。11月18日の佳代先生の作品は、みんなの流した汗？で必ず輝くことでしょう。 金沢景子

Interwined 相互に分かちがたくからみ合う。何年も前に中華料理のレストランでひいたおみくじクッキーからでてきた言葉です。占いの内容は忘れてしまいましたが、この言葉だけは印象に残っています。ダンスは、舞踊、音楽、美術、衣装(そして今回の新作「震える木」では詩と映像までも)が、まさに分かちがたくからみ合う舞台芸術と言えるでしょう。そのような舞台に参加させて頂くこと、それも3作品すべてで演奏させて頂くことは大変に重い責任を伴いますが、すばらしい機会です。演奏者として、当日、いかに自分自身が作品とinterwineできるか。緊張と期待のからみ合った気持ちで、本番に向けて準備しています。

黒田育世(チェリスト 作品展では3作とも演奏していただきます)

リサイクルへの意気込み

リサイクルでは「追いかける」「花」「震える木」の3作品ともチェロを中心に生演奏で踊ります。「震える木」では、震える木のまわりにいる滴、虫、葉がそれぞれ独特の動きをしながら風になり消えていく、この雰囲気がとても好きです。私は7人の仲間と一緒に虫を踊るのですが、ただの虫ではなくて「震える木」のなかの虫を意識して踊りたいです。たぶんあと5回くらいしか踊れないと思いますが、3作品とも自分なりに考えながら、一回一回を大切に本気で頑張ります。 長谷川千夏(本部シニア科)

藤田佳代舞踊研究所第4回西大和教室発表会

2006年12月17日(日) まほろばホール大ホール

「穴間交差点を渡るとき子守唄が聞こえてきても眠っちゃいけないよ」

大阪を飛び越えて教室を開いてくださるなんて、と感激してから13年。西大和教室の発表会も4回目を迎えてさせていただきます。

その間、先生方には、雨にも、渋滞にもめげず高速1時間をかけて来て下さり、汗を流したあと、また夜道を帰られる。ただ、ありがとうございますの一言です。西大和教室は稽古場に恵まれており、体操科からジュニア科まで、各クラスのびのび練習しています。幼児科はお母さん達もゆっくり見学できるので、妹ちゃん、弟君の飛び入りもままあります。ジュニア科はこの先、本部教室へ通うことを念頭に、受験校を考えたりもしているようです。本部の応援を得ての発表会も、もうすぐです。今年はオリジナルの踊りを作っていただきました。少し遠いですが(法隆寺の近くです)奈良の子供達も見てやって下さい。 佐藤美子(西大和教室バレエ体操科)

久しぶりに神戸の発表会を見に行き、出演者の多さと、踊りのすごさにびっくりしてきました。今年は私も3年に1度の発表会に出演するので、いろんな踊りが見られてとても勉強になりました。しかし、終わって考えてみると、私はまだ全然踊れていないことにとても不安になりました。でも、せっかくの発表会。後悔しないようにあと1ヶ月あまりのレッスンを大切にして、楽しんで踊れる発表会にしたいです。

佐藤茉莉(西大和教室ジュニア科)

毎年楽しみにしている神戸の発表会。今までは、西大和教室の発表会の参考になるように、と神戸まで見に行っていたけど、最近は神戸の教室の子とも友達になり、楽しみがさらに増えました。今年の神戸の発表会を見て思ったことは、ジュニアのクラスのレベルがとても高いこと。私ができない技を5人くらいで、そろえてやっていたりして、とてもびっくりしました。私も、あんなふうにできるようになったらいいのになぁ・・・と思いながら見ていました。神戸の発表会のように、3年に1度の西大和教室の発表会も成功させたいと思います。

佐藤佑香(西大和教室ジュニア科)

編集後記

いつものことながら、図々しく原稿依頼をさせていただきました。みなさん本当にありがとうございました。紙面の都合上行替えを勝手に詰めさせていただきました部分があります。どうぞお許し下さい。 責任編集 菊本千永